

(2)田辺市立田辺第二小学校の取組

中田 詩子 (田辺市立田辺第二小学校 教諭)

2年前の平成24年12月、初めて釜石に行くことを決めたのは、自分の目で確かめてきたいという気持ちが強かったからです。しかし、防災教育にすごく関心があったかというところでもありませんでした。釜石へ来て、実際に自分の目で見て、そして直接話を聞かせてもらって気持ちがまりました。防災教育に関心がなかった私も「防災教育やろう!」と思いました。しかし、「何からやればいいかわからない」、「どうしよう」と言っている間に時間が経ちました。ようやくわかってきたことは、努力はしなければいけないけれど、無理のないもので職場のみんなに提案したら、みんながやれると言ってくれるようなものから始めようと思いました。

第二小学校は、海が近いので魚の加工場もありますし、浜辺には公園もあって、小学生だけではなく中学生高校生もバスケットやスケボーをする施設もあります。夏は海水浴場のにぎわいますし、冬は近くの松林の中を持久走で使わせていただいています。このように海は身近なものです。新校舎も昨年完成したのですが、学校自体は海拔約7mのところ、3階の屋上で19mです。田辺市の津波地震の避難ビルに指定されています。

最近、防災の安全教育計画でいろいろと検討して、6月、12月と2月を防災安全教育強化月間として取り組みを進めています。田辺市はいくつかの地区に分かれていまして、第二小学校の校区は、東部・南部地区にまたがっています。その地区の保育所・幼稚園・小学校・中学校・専門学校の合同避難訓練を行っています。それに加えて6月は防災学習の授業参観を全学年行っています。この内容は和歌山県の津波防災指導の手引きを中心に行っています。2月の合同避難訓練は、校区の11の町内会も一緒になって地域の高台へ避難する予定です。

そして、今年度は7月、8月に校区内の避難場所の現地研修を行いました。これは、職員の研修です。私たちの校区と周辺の地域には、約20箇所の避難場所と避難ビルがあります。地図でここは避難場所、避難ビルとかわかっているのですが、知らない場所もあります。お恥ずかしい話ですが、職員で、すべての避難場所とかビルの確認を今までしてきませんでした。夏休みは比較的時間はありますし、これは職員で



防災学習の取り組み
和歌山県田辺市立第二小学校 中田 詩子

- 本校の概要**
 - 和歌山県南東部にあり、校区は太平洋に面している。
 - 全校児童 499名
 - 昨年新築校舎完成し、田辺市津波避難ビルに指定(3階屋上19m)
- 地震・大津波に関する防災・安全教育計画**
(6月・12月・2月を防災・安全教育強化月間とする。)

月	内 容
6月	○防災学習の授業参観(全学年) 和歌山県津波防災指導の手引きを中心に行う ○地震・津波合同避難訓練・地域高台への避難 ○校舎屋上への避難
7, 8月	○校区内避難場所現地研修(19ヶ所)(職員)
11月	○防災学習の授業参観(5年) 地震・津波合同避難訓練・地域高台への避難 ○昇下校避難経路・避難場所確認
2月	○地震・津波合同避難訓練(11町内会とも合同避難訓練) →地域高台への避難

合同避難訓練：田辺市街 東・南部地区保育所、幼稚園、小・中・専門学校の合同避難訓練

- 登下校避難学習の取り組みについて**
 - 校区内避難場所職員研修(夏休み中3回)
 - 校区内避難訓練(6月、9月)において、本校内にある避難場所・避難ビル・避難経路を確認し、位置や距離、経路等を確認した。
 - 校区の全ての避難場所や避難ビルに、実際に足を踏み込んで確かめることはできていなかった。今回、現地研修を行うことで、果たにいくつかの避難経路や避難ビルの有効性を確認できた。また、津波の高さの2か所の高台が確認できることもわかり、現地研修の重要性を実感した。同時に、児童にも避難経路を確認させた。避難場所、ビルを教えることが必要だと感じた。

-1-

◎登下校中の避難学習

○日時 平成26年11月16日(日)13:30~
登校参観日 校内参観会

○お話し
登下校中に大津波が発生したり、津波警報が発令されたらした場合は、開校の状況判断をし、身の安全を守るようにする。

○内容

- ①大津波発生とともに通学路で見られる危険とそれらから身を守る方法を知る。(全校学習)
 - フロッグ編・自動車運転・看板・壁 -
- ②通学路にある避難場所を知る。
 - 確認し写真や避難場所、ビルの地図(全体学習)
- ③危険箇所、避難場所、避難ビルを確認しながら、集団下校する。
 - 下校途中で考えさせる
「もし、ここで大津波が起きたら(大津波警報が発令されたら)ア、フロッグ編や看板などの近くで「壁を叩くことはいか?イ、通学路の分岐点で「どこへ避難すればいい?」

○その他
保護者の参加も呼びかける。

○成果と改善点

- 保護者も全体学習から参加し、危険な場所などを確認しながら、一緒に帰ってきた。
- 確認した場所を確認することは効果的である。(特に登下校時)
- 校区に居住する子どもたちが、立ちまわり、一緒に危険なものを見つめながら帰ることができた。
- 自分が住んでる地区ではない避難場所は、あまりわかっていないように感じる。今後全ての子どもが、校区内と周辺の避難場所を知っている状況にする必要がある。
- 低・中学年の校区別避難学習時に、避難場所の確認を織りこめる学習計画を立てる。
- 保護者・地域住民と連携を図り、全校で校区内の避難場所や、地震や気象災害時の危険箇所などを確認する活動を位置づけなどの工夫が重要である。

-2-

研修していかないといけないということで3回行ってきました。

資料 p1 の写真に載っているのは田辺市の有名な神社ですが、この神社の奥に避難経路があるということはあまり多くの人には知りません。柵のパイプをどかすと避難経路が出てきます。下草をかきわけて上がっていくと後ろの高台に上れるようになっていきます。そういうことも私たち職員は知らなかったもので、現地へ行くことの重要性も知りました。近くに二つ別の神社もあるのですが、それぞれ高台を上っていくと上でつながっていることもわかって、実際に行ってみないとわからないなということを実感しました。

子どもたちには、学校にいるときに避難場所へ避難していくということはできているのですが、学校以外で起きたときに、一体どこへ逃げるのかを実際に教えてはいなかったもので、絶対に子どもたちに教えないといけないと思いました。まず460人にいろんな箇所をどう教えていくかを思案しました。子どもにとって一番身近な場所は登下校の周辺にあるところだろう、ということで登下校中の避難学習を計画しました。私たちの第二小学校は学童保育があり、校舎内に開設されています。普通の日であれば集団下校できないので、対応を考えなければなりません。本校では、11月に校内音楽会を日曜参観として実施しています。そこで、それが終わったあと、5時間目にみんなで集まり集団下校しようということに決まりました。はじめに全体で体育館に集まり、通学路で見られる危険なものとはどんなものがあるか、逃げる（避ける）ためにはどうしたら良いか、ということを考えました。次に、p2の上写真のように左側に避難場所・避難ビルをうつして、右側に地図をうつしました。そこで場所の確認と上り口や、上ったらこんなところに出るよということを確認しました。その後、地区ごとに職員も一緒になって集団下校しました。引率している職員が時々、「ここで大地震が起きたらどうする？」という問いかけや、「ブロック塀の近くや、看板の近くで気をつけることは何か」、通学路の分岐点では「ここで避難するならどこへ避難するか」、などの投げかけをしながら集団下校しました。このときには家の方にも参加を呼びかけていたので、多くはなかったのですが、保護者の方も参加してくれました。全体会から参加してくれて一緒に危険な場所も見て、どうしたらよいかと考えながら帰ってくれました。

実際に現地をまず確認することは大変効果的でしたし、特に同じ地区に住む子どもたちが立ちどまって一緒に考えて、「危険なものはどれ」とか、「どうしたらいい？」と考えながら帰ることができて良かったと思います。ただ、自分たちが住んでいる地域ではない避難場所はあまりわかっていないのが実情です。

今後ですが、すべての子どもたちが校区内と周辺の避難場所・避難ビルを知っている状況にする必要があります。低学年の生活科や、中学年の社会科の校区探検のときに避難場所の確認を組み入れる、そういう学習計画を立てようと考えております。保護者の方と地域の方と連携をはかって全校で校区内の避難場所を確認することとか、地震やその他の気象災害時のときの危険箇所などを確認する、そういう活動もきちんと位置付けていかなければいけないと感じていますし、職場のみんなも同じように考えて同じように感じてくれているので、少しずつですが、取り組みを進めていきたいと考えています。